

## 「人間」研究のさらなる展開を期して

著者	丸山 高司
引用	人間関係論集. 2005, 22, p.1
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/2592">http://hdl.handle.net/10466/2592</a>



## 「人間」研究のさらなる展開を期して

大阪女子大学長 丸山 高 司

今春、府立の三大学が統合して、公立大学法人としての新しい府立大学が誕生します。未曾有の府立大学改革です。

今日、大きな時代のうねりの中で、日本の大学は根本的な変革を迫られています。府立の三大学も、将来に向けた新しい展開、さらなる発展を期して、統合・法人化という道を選択しました。本学の80年の歴史が、新生の府立大学の大きな活力源になることを確信しています。

さて、本学の人間関係学科は、昭和58年（1983年）に、社会福祉学科から改組し、社会福祉学科の学統を踏まえて、3専攻（社会学・教育学・心理学）からなる学科として再出発しました。さらに、平成11年（1999年）、二学部制（人文社会学部・理学部）への改組転換に際しては、5専攻（人間学・社会学・教育学・心理学・スポーツ学）を擁する学科へと発展しました。

人間関係学科は、「人間」に関する学際的な研究の場として、その本領を発揮してきました。さまざまな研究視点が交差し、ときにはぶつかり合いながら、意欲的で生産的な知的活動が営まれてきたわけです。『人間関係論集』（昭和59年に創刊）は、こうした学問的環境において生み出されてきました。

今回の府大学改革に伴って、『人間関係論集』も、第22号をもって幕を閉じることになりました。この記念号には、人間関係学科の全教員がそれぞれの力作を寄稿しています。まさに有終の美を飾るべき、充実した内容になっています。

生産性や効率性が声高に叫ばれている現今の社会状況において、「人間」研究は、ますますその重要性を増しています。アクチュアルな問題に取り組むことはもとより、基礎的な問題に関する真摯な研究がなされねばなりません。人間関係学科の学問的伝統が、新大学においても、発展的に継承されていくことを切望しています。